

「大丈夫だよ」

夕方、保育室の窓に夕陽が差し込みました。  
1歳児のKちゃんは、ふと床に映った自分の影に気づきました。



影はKちゃんが右に重くと右に左に重くと左に重くなりました。



そして、Kちゃんの後ろには誰もいません。不安になったKちゃんは、ベそをかき始めました。



ふえ〜ん!

影が重くからびっくりしたんだね。大丈夫だよ。ほら、先生の手を重かしたら影も同じように重くでしょ。でも影は何もしないからね。



影の存在に初めて気づいたKちゃんの不安な気持ちが伝わってくる場面でした。ひとりひとりの思いに寄り添いながら安心して過ごすことが出来るようかかわっていきたいと思っています。

「やってみたいな」

1歳児のLちゃんが「ままごとあそび」をしている姿を、0歳児のMちゃんがじっと見つめていました。



保育士が、Lちゃんの入れてくれたお茶を飲むしぐさにも、興味しんしんのMちゃん。



「アイ。(どうぞ)」

ゴクゴク。おいしい！ Lちゃん、ありがとうございます。

Lちゃんが「その場を離れると、今度はMちゃんが、おもちゃのきゅうすを手に取りました。



ぎゅっ!

まあ！ Mちゃんも「お茶を入れてくれたの？」ありがとうございます。

「アイ。(どうぞ)」

ぎこちない手つきながらも、MちゃんはLちゃんと同じように、きゅうすを使ってお茶を入れると、保育士の戸前まで「ヨチヨチ歩いてきました。



友だちのあそんでいる姿を見たり、真似たりしながら、あそびの世界が広がっていくよう援助していきたいと思っています。